

エクストリームチャレンジ in 四国の右下 2014

オープンクラス 優勝チームコメント

とれいるざんまい 杉田 明日香さん

レース前

「たけぷーも一緒に、4人で四国に行こう。」

奥大井大会の表彰式で、

久保田さん、杉山さん、私の3人はそう思っていた。

久保田さん、杉山さん、たけぷーさん、私の4人で[とれいるざんまい]なのだ。

那珂川大会、奥多摩大会、奥大井大会は、久保田さん、杉山さん、私(杉田)で出場。

桜枝岐大会は、杉山さん、たけぷーさん、私(杉田)で出場。

今回の四国の右下へ、[4人]で行けることで喜びがいっぱい。

ブリーフィングは、初めて出会う人やチームの方が多数。

それだけで、私はワクワクする。

この高揚感もたまらない。

レース中

CP1～CP4 は、ランニング&チームチャレンジ(3種目)。

全員がサーフボードに腹ばいになり、手でパドリング。

野鳥鳴き声クイズ(見事に外れて、ペナルティをもらう。)

間伐体験ゲーム

(指定された通りに木にのこぎりで切れ目をいれ、指定された幅の中に木を切り落とす。)

上記を順不同で回る。

この時、大阪から参加のチームとまぜのおかまで並走する。

「おれたち、北アド(北アルプス山麓 Adventure Games)にも出てましたよ！」

の一言で、盛り上がる。

こういうのって、いいよなあ。

CP5～CP7 までは、MTB。

指示書には、

<ここは通行規制区間です。

分以上かけて通過してください。>という指示が2箇所ある。

時計をみながら、時間を調節。

CP8～CP11 は、シーカヤック&オリエンテーリング。

CP8 の那佐半島でのカヤックは、相当長く感じた。

波がザバザバあって、思うように進まない。

1時間くらい(?)漕いだ。

久保田さんはシングル艇。どんどん進む。

杉山さんと私は、ダブル。

後ろにいる、スパモ二探検隊の鈴木さん&後藤さんの艇が速い! 焦る。

CP9～10 のオリエンテーリングでは、登って降りてを繰り返す。

登った途中、少し開けた所から海が見える。

光があたって、輝いて見えた。

ここでは、たくさんのチームに遭遇する。
すれ違うときに、「とれいるぞんまい！」と声をかけてくれるチームがいて、
とっても嬉しかった。

CP12～GOAL は、MTB トレッキング OL MTB。
CP13とCP14 は、地図上に書かれたピンクの線の上のどこかに CP があり、
その場所を正しく地図上に記すというもの。
ここは、かなりゆっくり、確実に。
何度も何度も、周囲で見える景色と地図の場所を確認し、記す。
CP15 に MTB を置き、いよいよ最後の CP16 と CP17 へ。
どこから山に入るか悩み、
いばらのとげとげにぶつかり「ここは、やめよう」と言いながら、
山に入る。
CP16 でチーム NICHIA と一緒になる。
(この辺りで、ヘッドライトを使用)
このチームは速くて、先行していく。
そして、CP17 の鉄塔が見つからない。
NICHIA も迷っているようだ。
「今この辺りだから、もうちょい進んでみよう」
「ん？進みすぎたか？」
「ここにいるとしたら、この尾根はこれか？」
「ここまできたら、一回おりちゃった方がいいか。そっちでいってみよう」
など暗い山中でヘッドライト照らしてで右往左往。
「一回ここをおりてみよう」と判断して進むと、途中で久保田さんが止まる。
「おい！これ見ろよ！」
おっー！鉄塔管理道へ続くトレイルを発見！
「この道を外すなよ！周りをよく見て進もう。」
そのまま登っていく。
CP17 は、殻のポスト！
ゴム付きの、最後の一枚のカードを入れる。
「パスッ」

「この道を外さず帰ろうぜ」と言いつつも外しながら、
違う場所から舗装へ帰ってきた。
山から出て、MTB を置いてある神社まで RUN。
出た直後、久保田さんが「いや～、やっぱりアドベンチャーはおもしろい！！」
と元気な声で言っていた。
嬉しくなって、私の心も笑顔になった。
頭の上には、カシオペア座とオリオン座が見えた。
いつもより、なんだか大きく見えた。

CP18 の神社では、スタッフの川口隊長やあけちゃんたちが待っていた。

そのまま MTB を漕ぎ、
まぜのおかキャンプ場が見えた！
青色の電飾が遠くからでも分かる。
GOAL。
一番最初にゴールテープを切った。
拍手とスタッフさんの笑顔が嬉しかった。

久保田さん、杉山さん、たけぷーさんの笑顔が見れて幸せだった。

レースを終えて <地元の方々とのお触れ合い>

天の川の下で、祝杯をあげた。

この瞬間が、最高に幸せ。

「一年間頑張ってきて、本当によかった。

このチームで出れて、本当によかった。」と実感する。

13時スタート、最後のチームがゴールしたのが23時56分。

スタッフと共に、最後のチームを迎える。

自然と、拍手が沸き起こる。こういうのって、いいなあ。

選手は「ああ～、戻ってこれた～。」という安堵感の表情を浮かべている。

レース後は、地元チームの方々と談笑する。

チーム NICHIA や メッシュ・チーム の方々と交流できた。

「徳島では、AR がなくてね。この大会が楽しみなんですよ。」

「レースにあまり出れないから、エクストレモの HP 上の <参加者コメント> を読んでるんですよ。」

「普段は走ったり、トライアスロンでたりしてるんですよ。関東や関西の大会にも出てみたいなあ。」

と、他愛のない話をする時間がとても嬉しい。

地元チームの方と交流をすることは、今大会の楽しみに一つであった。

今回一緒にレースを楽しんだ方々と、阿波踊り大会や他のイベントで再会したい。

あと、地元の県の観光課の方々やスタッフの方々(特に、関西の普段なかなか会えない川口隊長との再会にテンションあがる!)と、たくさん談笑できたことに心弾む。

余談ですが、我々とれいるざんまいは、年間を通してペナルティ多めだったということで、

【ペナルティざんまい】をいう新たなチーム名を授かりました(笑)。

アドベンチャーレースの魅力

開催地の地元の方との触れ合いがあること。

地元の方が笑顔でスタッフしてくれる姿に感謝します。

色々な種目ができること。

色々なスポーツや新しいゲームをすることは、人生の喜びですもの。

仲間が最高！！

尊敬できて信頼できて、魅力的な人との出会いに感謝。

かっこよくて憧れの人がいっぱい。

一人じゃへこたれそうなことも、支えられて頑張りきれぬ。

そんな環境に感謝。

チームメンバーはもちろん、

一緒に遊んだり競い合って高めあえる仲間がいるって、幸せですもの。

アドベンチャーレースは、人を幸せにしてくれるスポーツです。